

情報連絡一覧票 (石川県中央会・平成20年2月分)

集計上の分類業種	具体的な業種 (産業分類細分類相当)	組合及び組合員の業況等(景況の変化とその原因・現状等、企業経営・業界での問題点)
食料品	調味料製造業	醤油の出荷量が前年に比べやや増加している。2ヶ月連続で増加は久しぶりの事である。
	パン・菓子製造業 (主に菓子)	前年に比べ、天候が良かったぶん僅かに売上が上昇した。
繊維・同製品	織物業 (小松方面)	前月と同様に、相変わらず厳しい状況が続いている。
	その他の織物業 (ゴム入織物)	多品種、少ロット、短納期製品が続き生産効率が低下している、原油高騰による原材料費の高騰による影響が大きい。製品への価格転嫁が厳しく、後加工、梱包資材等の値上げが続き、価格改定のタイミングが難しい。ガス等の光熱費も上昇傾向にあるが、合理化・差別化を図り自社で伸ばせる分野を実行に移す組合員も多く、設備増強計画も立てている。一方で、休業状態の企業、廃業する関連企業もあって産地として深刻な事態となっている。
	その他の織物業 (織マークの生産・加工)	2月の売上は昨年とほぼ同様の額となった。しかしながら、収益の悪化が収まらず、組合員企業1社が廃業をすることになった。組合員のみならず、組合経営も依然として厳しい状況が続いている。
木材・木製品	製材業、木製品製造業 (能登方面)	2月は取扱量も売上も前年とほぼ変わらなかった。
窯業・土石製品	生コンクリート製造業	県内の生コンクリートの出荷状況は、前年に比べ116.8%で推移した。その他として、官公需、民需とも順調で、官公需は125.4%、民需は107.9%で推移した。
	粘土かわら製造業	2月は前年に比べ出荷量が約20%落ち込んだ。原因として、悪天候で工事が出来なかった、新築物件が少ない、先行きが不透明なための買い控えの3点が挙げられる。
	陶磁器・同関連製品製造業	昨年に比べ約5%売上が落ち込んでいる。様々なイベントへの参加、伝統的工芸品展への出展を含め、首都圏でのPR、販路拡大へ向け取り組んでいる。
	砕石製造業	2月の組合取扱い出荷量は、対前年同月比で生コン向けの出荷量が6%増加、合材用アスファルト向けが11.1%減少したものの、全体出荷量は3.6%増加となった。しかし、年間トータルでは5.6%減少しており、3月も出荷見込みは減少傾向にあるため、非常に厳しい状況である。
鉄鋼・金属	鉄素形材製造業 (鋳鉄鑄物の製造)	原油の高騰が引き金か、このところ諸物価の値上がりが続いている。鑄造諸材料も高騰が続き、企業経営を著しく圧迫している。このことから鑄造業界としては、鑄造品の値上げを余儀なくされ、ユーザーの方に理解を求め、値上げに踏み切ることにした。業界の景況はこの事が影響してなのか、停滞若しくは下降気味である。
	鉄素形材製造業 (鋳鉄鑄物の製造・修理)	特に変化は見られないが、依然として続く原油高騰による原材料の高騰並びに、内外経済の減速傾向を不安視する経営者の声が多く聞こえるようになってきた。
	非鉄金属・同合金圧延業	特に変化は見られない。
	一般機械器具製造業	徐々に景況は下降気味で推移してきている。組合員企業の来期目標を見ても、ほとんどが減少となっている。しかし、海外向けに生産している企業は相変わらず好調な見方を示している。
一般機器	機械金属、機械器具の製造①	仕事が減少しているのか、団地内は静かである。
	機械金属、機械器具の製造②	高水準ではあるが、操業度は若干下降傾向にある。時間外操業が減少していることが影響である。受注の内容も、より小ロットとなっており生産効率が下がっており、忙しいわりには売上が上がらない状況になっている。先行きへの懸念から積極的な投資に多少ブレーキが掛かってきたのではないだろうか。
	プレス、工作機械	2月は、外需からの受注が好調であり、前年に比べ売上高が約25%伸びた。ただし、原油高や素材高の影響により収益は下がっている。その他として、鋼材価格が値上げの気配を見せており、上昇分を販売価格に転嫁できるかどうか問題である。
	機械器具及び其の他金属製品の製造	前月と同様に、北米向けの輸出はサブプライムローンの影響で更に減少している。原油の高騰については、収益を圧迫しているが、何とか企業努力で対応している。鉄鉱石の値上げ、株安、円高などの不安材料は多く、景況の見通しは非常に苦しい見通しである。その中でも電子関係は好調を維持している。
	繊維機械製造業	繊維機械向けの部品加工が落ち込んできた。繊維機械メーカーの見通しでは、年の後半には回復するとのことであるが、心配である。
その他の製造業	漆器製造業 (加賀方面)	展示会や販売の現場では中国製品の安全性問題に関連して素材や原料についての問い合わせが多くなってきている。産地でも中国製の輸入漆器や国内再加工品を中心に扱っている企業には強い逆風となっている。しかしながら組合の2月のカタログ販売額は中国製品の出荷減少を国産品がカバーして前年同月比では8%のプラスとなった。産地全体としても大きな変化は見られず下げ止まりから回復基調への移行が期待される。

情報連絡一覧票 (石川県中央会・平成20年2月分)

集計上の分類業種	具体的な業種 (産業分類細分類相当)	組合及び組合員の業況等(景況の変化とその原因・現状等、企業経営・業界での問題点)
卸売業	繊維品卸売業	合繊は、原油高の影響で原糸が高くなり、採算面が悪くなっている。絹織物関係は、和・洋装とも悪いままである。
	農畜産物・水産物卸売業	2月は前年に比べてほぼ横ばいで推移した。今までの低下よりは良い結果と考え、今後に期待している。
	一般機械器具卸売業	住宅着工の回復兆しは無く、相変わらず前年割れが続いている。工務店や中小の住宅会社の資金繰りが心配である。市況は、悪くなる一方で、良くなる兆しは全く無い。年度末の官公庁の仕事も無い状況である。
小売業	百貨店・総合スーパー	2月は前年比92%で推移した。客数は前年に比べ増加傾向にあるものの、週によって客数にばらつきが生じている。客単価も上がらなくなっており、苦戦を強いられている。
	男子服小売業 婦人・子供服小売業	前年の暖冬に比べて、寒気が残り、婦人服の一部(春物)を除き、全体的に前年をクリアーし、前年比101.6%で推移した。
	鮮魚小売業	2月は全体的に入荷量が少なく価格も高値で推移した。気象の変化や海流の流れや海温の上昇が原因ではないかと考える。
	米穀類小売業	農業従事者の高齢化が進む今、米穀業界も衰退するのを見ているのではなく、自分達で何かをしなければならぬということを実感しなければならぬ。
	機械器具小売業	2月の地域店の伸びは、前年比85%と大幅なダウンとなった。液晶・PDPテレビも前年比80%にダウンとなった。一方、原油高による暖房機器としてのルームエアコンは120%と伸びているが、全体の伸びを押し上げるまでには至っていない。
	燃料小売業	2月は例年の寒さとなり暖房用燃料の需要は回復した。しかし、ガソリン需要の不振と節約指向により価格は次第に軟化した。
	他に分類されない その他の小売業 (土産物)	観光客、売上ともに前年並みであった。土、日の天候が悪く観光客の出足が伸びなかった。その他として、兼六園が日本版ミシュランガイドで三ツ星に選ばれたことによる観光客の増加に期待している。
商店街	近江町市場	石油高騰感のためか不況感を感じている。
	尾張町商店街	気持ちの大寒などといった内、2月に入ってから本当の大雪になってしまった。交通機関も上手く動かず、当然ながら商品の流通もギクシャクし出したにもかかわらず、もはや冬物商品に手を出すには考えられない時期になってしまっている。ただ、固定客は、そんな天変地異などとは無関係に需要があるのありがたい。ただ、ここで最近感じるのは、一般客の中で、突然高額商品を買ってくれることだ。老舗としてずっと営業していることに信用という信頼感を持って頂いているのか、100円ショップの使い捨てでない、持つほどに味わいの出るような価値ある物を買いたいという風潮が感じられる。ある日突然、100万円の腕時計を買いに来たり、80万ほどのテントを買いに来たり、購買層が極端な二極分化になっていることを感じる。
	片町商店街	悪天候が続いた2月は、客足も伸びず大変厳しい月であった。その他として、ガソリン高の影響で、駐車場の売上も前年比で三割近く減少した。
サービス業	旅館、ホテル (金沢方面)	原油価格の高騰や食に対する安全面などにより、個人消費が減少している。高騰分も価格へ転嫁できず、今後が心配である。卒業旅行や観光シーズンに期待したい。
	旅館、ホテル (加賀方面)	原油の高騰、仕入価格の高騰が旅館経営を更に圧迫している。妥当な販売価格を維持したいが、先行き不安から消費の抑制が強く感じられ、旅行そのものの需要が伸びていないと思われる。その他として、最新の観光施策として、個々旅館は経済的にも苦難の中、おもてなしや料理に工夫するように個性化に努力している。温泉地全体でまちぐるみの人のあたたかさを基本に、新しい誘客策に取り組んでいる。
	旅館、ホテル (能登方面)	原油価格の高騰と仕入価格の高騰が続いているが、価格への転嫁が困難であり収益を圧迫している。
	自動車整備業	継続検査実績車輦数は、前年同月比6.0%増、前月比54.3%増となった。新規検査状況は、前年同月比5.6%減、前月比66.8%増となった。
建設業	一般土木建築工事業	建設業界が直面している問題は、資材等の仕入単価の上昇に反して販売単価が低下していること、需要の停滞、人件費以外の経費の増加が挙げられる。その他として、受注件数が大幅に減少し、価格設定も低く見積もるため利益率が少ない。このような状況が続けば、廃業・倒産が加速するのではと危惧している。
	板金・金物工事業	販売価格、設備操業度については、地域差が見られるものの、景況については全体的に低迷傾向にある。景気の回復に期待している。
	室内装飾工事業	業界の景況は悪化している。その他として、件数は少ないが、異業種による採算を度外視した入札があり、対応に苦慮している。
	管工事業	前年同月に比べて、ガス水道工事件数は12.3%増加しているが、年間を通してみると14.1%減少している。相変わらず伸びない状況が続いている。
運輸業	一般貨物自動車運送業 ①	運賃転嫁が進まないトラック業界に、国土交通省と公正取引委員会が緊急措置を発表した。スムーズに転嫁できることを期待している。
	一般貨物自動車運送業 ②	運転手の応募が減少し、その確保に苦慮している。売上高は前年に比べ約5%減少した。その他として、大口ユーザーへの運賃転嫁は相変わらず進展せず、軽油価格は高止まりで推移し、収益状況の悪化は続いている。